



お薬について

お医者さんの薬はオーダーメイド。正しい使い方を

子どもは大人と違い成長の過程にあり、年齢や体重だけでなくからだの機能も発達
の過程で変化していきます。医師はその子のその時の症状や状態（年齢、体重、アレ
ルギーなどの体質、今までにかかった病気や使った薬の状況など）をふまえ合う薬を
出していますので、使う回数や量、日数などは正しく守りましょう。

お薬手帳を活用しましょう

お薬手帳はその子の薬の記録ノートです。子どもの場合複数の医療機関にかかるこ
とがしばしばあります。お薬手帳の内容は、単に薬の使用歴というだけでなく、その
子の今までの治療の経過や使った薬の内容など今後の治療に役立つ情報にもなります。
また、薬を使って気になることがあったら書き込んでおき次回受診時に伝えましょう。
お薬手帳は一人一冊お持ちいただき上手に活用されることをおすすめします。

お薬の種類別ポイント

●飲み薬について

水以外のもので服用する場合は、不都合はないか事前に薬剤師に確認しましょう。
食事がとれない時や、薬を嫌がる場合、子供の場合は「食後」と用法に記載があつ
ても特殊な薬を除いて、空腹時の服用でかまいません。特に乳児の場合は授乳前や
授乳の途中の方がうまく服用できます。水薬が乳幼児の手の届くところにありま
すと、こぼしたり不適切な服用量を誤飲したり事故につながります。手の届かない
ところに、保管しましょう。また、大人の薬（利尿薬・睡眠薬・抗不整脈薬など）
も手の届くところにありますと、誤飲事故の元となります。きちんと保管しまし
ょう。

●坐薬について

大人用の坐薬を量を減らして使うのは絶対にしてはいけません。小児には使用で
きない成分の坐薬もあります。溶けてしまった坐薬は冷やして固めても使えません。
いつ、誰に交付されたものかわかるようにして冷蔵庫で保管してください。一般的
に交付後1年が有効期限のめやすです。

●塗り薬について

原則として、治療が終われば余っていても廃棄しましょう。(医師から特別な指示がある場合は指示どおりに使用してください。)塗り薬も当然、薬です。あやまった使い方をすれば、良くなれないばかりが悪化する事もあり得ます。医師の指示や薬剤師のアドバイスに従って使用してください。

●目薬について

目薬が大好きなお子さんは少数派です。保護者の膝の上に抱くなどして、なるべくリラックスした状態で点眼してあげてください。冷蔵庫から取り出したばかりの冷たい目薬よりも、室温になじませた目薬は刺激感が減ります。冷蔵庫で保存した目薬をすぐ使いたい場合は、しばらく手で温めてから使用すると良いでしょう。保管方法・有効期限は薬剤師の指示を守りましょう。

※ ※ ※ ※ ※ ※ よくある質問Q&A ※ ※ ※ ※ ※ ※

Q1. 坐薬を入れた後に便をしてしまいました。もう一度入れた方がいいですか？

A1. 坐薬がそのまま出てきたときはもう一度入れ直してください。便中に坐薬の形がなければ入れ直さずにそのまま様子をみましょう。

Q2. 薬をのませたらすぐに吐いてしまいました。もう一度のませてもいいですか？

A2. なぜ吐いてしまったかによって対応が変わります。咳でむせて吐いてしまった場合は落ち着いてからもう一度のませてください。薬を嫌がって吐いたり、お腹がいっぱいで吐いてしまった場合は再度服用せず、次回の分から授乳前や空腹時に服用させてください。胃腸炎などで吐き気のある場合は無理に服用させず、吐き気が治まり水分がとれるようになってから服用してください。

Q3. 兄弟の薬をのんでもいいですか？

A3. 子どもの薬の量は年齢や体重はもちろん、病気の状態によってもかわります。同じ症状でも他のお子さんにはのませないでください。

Q4. 熱がでたので家にある抗生物質をのませてもいいですか？

A4. 抗生物質はのまないでください。受診した際、医師が正しく診断できなくなる可能性があります。解熱剤については、食欲がなく水分も十分に取れず、頭痛など

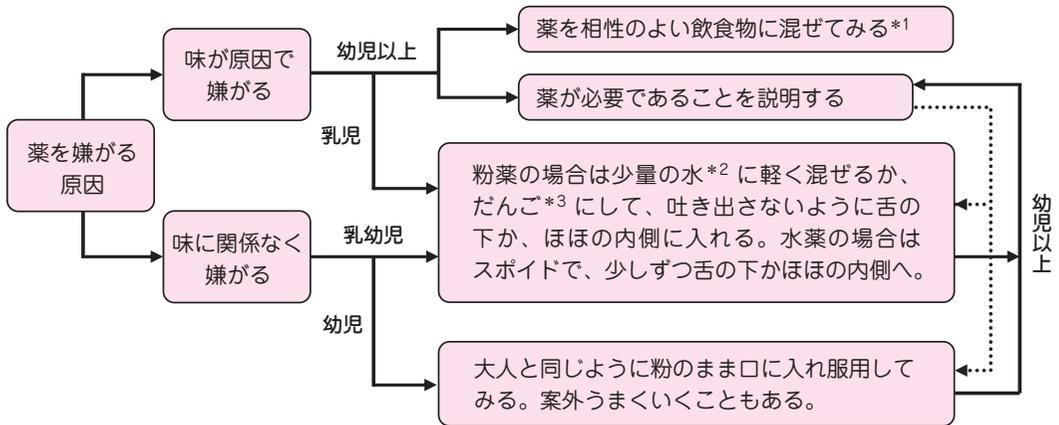
があつてつらそうな時、眠れない時、元気がない場合などには使用しても構いません。安易な使用は、控えましょう。

Q5. 薬をのんだ後に発疹ができました。このままのみ続けてもいいですか？

A5. 小児の場合発疹がでる病気が多いので、発疹が薬による副作用なのか、病気によるものかの診断が必要です。一旦中止して医師の診察を受けてください。病気による発疹で薬をやめるとよくない場合もあります。

Q6. 子どもが嫌がって薬をのみません。いい方法はありませんか？

A6. まず、食前や授乳前の「空腹時」に服用させてみてください。食後の服用にこだわる必要はありません。テレビや遊びに夢中になっているタイミングでの服用もおすすです。お口に入れて時間が経つほど苦味が増すお薬も多いので、出来るだけ早く「ごっくん」できるようにしましょう。そして、のめたら十分にほめてあげましょう。それではフローチャートを参考にのませてみてください。



* 1. ジュース、アイス、牛乳などそれぞれの薬と相性のよい飲食物を薬剤師に確認しておこう。

* 2. スプーンに1杯弱の水が目安（スプーンに粉薬を入れ水を加えて一さじでごっくん）

* 3. 小皿にとった粉薬に1滴ずつ水を加え、練り歯磨き程度の硬さのだんごを作ろう。

（口直しの食べ物 → お薬だんご → 口直しの食べ物とテンポよくお口へ）

* 4. 水を一口飲む → あーんして一度に粉を舌の下に入れる → もぐもぐした後に口直しの飲食物を。

Q7. 目を離した際に子どもが水薬を3日分一度に服用してしまいました。どうしたらいい？

A7. 薬の内容と分量によって対処が変わり、様子を見ていい場合と緊急に処置が必要な場合があります。必ず飲んだ薬の名称がわかるもの（お薬手帳など）を持って、受診するか医師・薬剤師に相談しましょう。もし休日などで医療機関と連絡がとれない場合は、下記の電話相談かホームページをご利用ください。薬以外の異物（タバコ、洗剤など）を誤飲した場合も、下記の電話相談を利用できます。

財団法人日本中毒情報センター

<中毒情報データベース>

<http://www.j-poison-ic.or.jp>

<中毒110番・電話サービス（一般向け）>

大阪中毒110番（365日24時間対応）

TEL：072-727-2499

タバコ専用電話（365日24時間対応、テープによる情報提供）

TEL：072-726-9922



誤飲による健康被害を防ぐためには、日頃から薬の管理に注意を払うとともに、万が一に備えてお薬手帳を活用し、今どんな薬をのんでいるのかわかるようにしておきましょう。